

解明！古代群馬の中心

# 上野国府跡



▲上野国府で開かれている市の様子（想像図）

## こうずけこくふ 上野国府を解明する

上野国府は、古くから元総社町の総社神社付近に存在することが推定されてきました。近年の調査で、総社神社の東側を流れる牛池川の低地から人形の呪符くりにのくりやや「国厨こくち」※<sub>1</sub>や「曹司そうし」※<sub>2</sub>と書かれた墨書土器ぼくしょどきが、たくさんみつかりました。また、関越自動車道の調査で鳥羽町の鳥羽遺跡から国府の神社跡が発見されたことなどから、総社神社から関越自動車道の一帯が、国府の範囲であることがおぼろげながらわかってきました。

国府は、奈良・平安時代の律令制下における地方統制の中心として設置された役所であり、まさに政治、経済、交易などのいわば上野国の古代文化を集約する唯一の地方拠点でもありました。元総社地区には、かつて国府や国庁を中心とした古代の地方の官庁街といった地域がひろがっていました。

現在、前橋市教育委員会では元総社おうみ蒼海土地区画整理事業に伴って、群馬の古代史上重要な上野国府を解明する発掘調査を行っております。

どうぞ、引き続きご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1) …役人の食事を提供する台所 2) …役所の建物の総称



上野国印（奈良時代）  
（天平勝宝4年／752年）



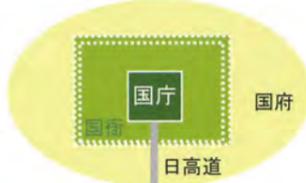
上野国印（平安時代）  
（延長6年／928年）  
（群馬県立歴史博物館提供）

**古代の地域区分**

凡例 ● 国府所在地



▲上野国と郡域



▲上野国府のイメージ図

**今から1,300年前、前橋には上野国の国府がありました。**

645年の大化の改新(乙巳の変)以降、古代の律令国家は、現在の都道府県にあたる地方行政単位として全国を60余りの国に区分し、**大国、上国、中国、下国**の4等級に格付けし、上野国は最上位の**大国**でした。

**上野国とは？**

大国の上野国の範囲は現在の群馬県とほぼ同じで、14の郡を管轄していました。

**国庁・国衙・国府とは？**

- ☆国庁とは？…「国司」という都から来た役人が儀式や政治を行う中心的な役割を担った役所の中枢施設をいいます。(現代で言えば、群馬県庁の知事部局)
- ☆国衙とは？…国庁の周囲に設けられた国の行政事務を行っていた役所群をいいます。(現代で言えば、群馬県庁の本庁舎全体)
- ☆国府とは？…国庁、国衙を含めた役所に勤務していた役人の館や、兵士などの**宿舎、市、学校、農民の家**などを含む

範囲全体のことをいいます。(現代で言えば、群馬県庁とその周辺の大手町の範囲)

**“幻の国府”から“国府のあるまち前橋”へ**

今、全国各地で国府跡の発掘調査が進められています。そして“国のまほろば”として史跡公園になっています。そのような中で古代群馬の上野国府跡は“幻の国府”として、なかなか正確な位置がわかりませんでした。

平成11年から始まった元総社蒼海土地区画整理事業に伴う国府関連遺跡群の発掘調査は、これからいよいよ国庁の発見にチャレンジする核心の調査に迫っていきます。

国府の中心である国庁の場所が見つければ、前橋は“国府のあるまち”として新たな脚光を浴びることになるでしょう。

**上野国の中心、国府がここ元総社にあったのです。**



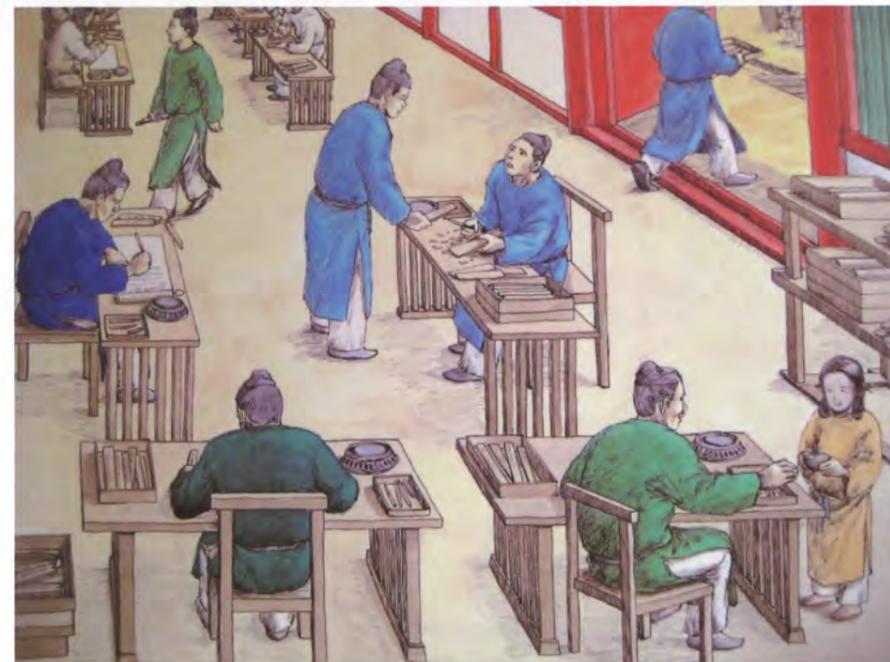
**国府跡からはこんなものが発掘されています。**

国府跡の推定地からは、大規模な掘立柱建物や当時使われていた文房具などが発掘されています。

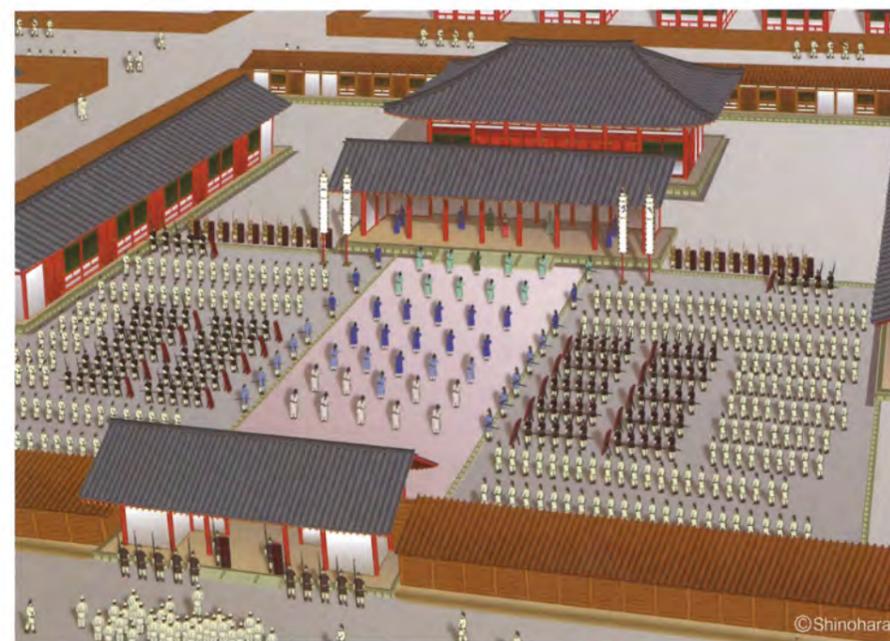
これらの出土品から、昔の前橋で暮らしていた人々の生活や、国府にどんな役所があったのかなどを推察することができます。

**役人の仕事**

奈良時代の役人は、「**刀筆の吏**」とも呼ばれていました。当時紙は貴重だったので、木簡を削って墨で文字を書いて、役



▲役所での役人の仕事の様子 (平城京跡資料館図録より)



▲国府での元日朝拝の図 (篠原祐一氏作図・提供)

所の事務を行っていました。下のイラストはその想像図です。

**元日朝拝**

役所の中心施設では、「元日朝拝」という重要な儀式が行われていました。最下段のイラストは国司の長官(守)が、下級役人から年賀のあいさつを受けるところを想像したものです。(上野国は親王任国といい、親王が国司に任じられ、「太守」と称しました。親王太守は現地へ赴任しないため、次官の「**上野介**」が実務上の最高位でした。そのため、年賀のあいさつは介が受けたと思われます。)



▲「国厨」や「曹司」などの国府の施設名が書かれた土器 (元総社寺田遺跡・群馬県埋蔵文化財調査事業団提供)



▲大祓に使った人形など (元総社寺田遺跡・群馬県埋蔵文化財調査事業団提供)



▲大祓に使った人形など (元総社明神遺跡)



▲役人の使った硯・水滴・小刀・筆・墨などの文房具 (復元品)



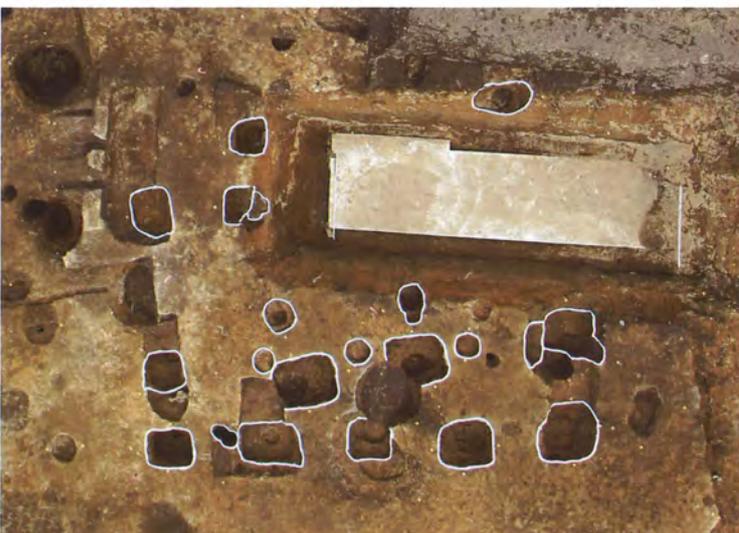
▲鳥羽遺跡で発見された国府の神社跡 (群馬県埋蔵文化財調査事業団提供)



◀元総社公民館の調査で発見された大型建物跡 (元総社蒼海遺跡群 (9))



▲発見された地盤改良 (掘込地業) を施した建物跡 (上野国府調査 28 トレンチ)



▲2棟重なって発見された掘立柱建物跡 (元総社蒼海遺跡群 (95))

飛鳥時代

大化元年(645年) 大化の改新(乙巳の変)。各国に国司・郡司が置かれる。  
 7世紀後半 宝塔山古墳が造られる。  
 7世紀後半 山王廃寺が建立される。  
 7世紀末葉 蛇穴山古墳が造られる。  
 持統8年(694年) 藤原京遷都。  
 大宝元年(701年) 大宝律令が制定され、国・郡・里制が施行される。  
 和銅元年(708年) 田口益人が上野守に任命される。(資料で確認できる最初の上野国司)

奈良時代

和銅3年(710年) 平城京遷都。  
 和銅6年(713年) 上毛野国を上野国と改める。この頃、国府が成立。  
 天平13年(741年) 国分寺建立の詔が発せられる。この頃、上野国分寺・国分尼寺が建立される

平安時代

延暦3年(784年) 長岡京遷都。  
 延暦13年(794年) 平安京遷都。  
 弘仁2年(811年) 上野国大国となる。  
 弘仁9年(818年) 弘仁の大地震。  
 天長3年(826年) 親王任国制の開始。初代上野太守は葛井親王。  
 天慶2年(939年) 平将門の乱。上野国府を占領する。  
 長元3年(1030年) この頃、「上野国交代実録帳」が作成される。  
 天仁元年(1108年) 浅間山噴火。  
 治承4年(1180年) 足利俊綱、上野国府を焼き払う。  
 文治2年(1186年) 源頼朝、諸国の惣社・国分二寺の修造を命じる。

前橋市教育委員会文化財保護課

(平成 28 年 3 月発行) 第二刷

371-0853 前橋市総社町三丁目 11-4

電話 027-280-6511 / FAX027-251-1700

http://www.city.maebashi.gunma.jp/

E-mail bunkazai@city.maebashi.gunma.jp